

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 37(R2. 2. 4発行)文責 校長 福田雅也

真剣に生きなきゃ、申し訳ない

先日の授業参観等大変お世話になりました。多数の保護者の方々のご参加をいただき、本当にありがとうございました。

授業参観では、各学年の発達段階に合わせた内容で、命に焦点を当てた性に関する指導が行われていました。どの授業もしっかり計画され、子どもたちの心に響く内容になっていたのではないかと思います。今回、本校の授業の中では扱われていませんでしたが、様々な実践の中では、「命」を、「死」という視点から見つめることで、その大切さや生きることの意味を考える授業も多く行われています。例えばこれまで私が見た授業の中では、骨肉腫のため中学2年生で亡くなった猿渡瞳さんの母の手記と、瞳さんが亡くなる2ヶ月前に弁論大会で発表した作文をもとに進める学習や、不慮の交通事故で亡くなった5年生の教え子のことを伝えながら、「命の学習」をされているある先生が記された手記での学習等を見てきました。二つ目にあげた例の中では、同級生が書いた下のような内容の詩が扱われていました。

てっちゃんが 最後に食べた ジュースとメロンパン
 てっちゃんが たおれていた 冷たい道路
 てっちゃんが よくでてくる ぼくの夢
 さそわなければよかった・・・
 てっちゃんにかりた つり針
 どうとうかえされなくなりました。

これらの授業では、「死」をより自分に近いこととして捉え、見つめることで、「生きる」ことや「命」について深く考えることができているように思います。

私はこれらの授業を見た後、いつも、本学校便り31号「二度とない人生だから…」で紹介した校長先生が、私と一緒に勤務した後、自分の学校(中学校)の生徒へ向けて書かれたメッセージを思い出します。題名は、本号の題名である「真剣に生きなきゃ、申し訳ない」です。この校長先生は、教頭時代にご自分のお連れ合いを病気で亡くされています。以下が、そのメッセージです。

あなたが空しく生きた今日は 昨日死んでいった者が
 あれほど 生きたいと願った 明日

韓国ドラマ「カシコギ」より

「あー、そうか。妻はもういないのかー。」
 妻が亡くなった頃、目が覚めたとき、現実にもどると
 この言葉がいつも脳裏をよぎっていました。
 私たちに言い残したことが多々あったことでしょう。
 死ぬ直前まで、娘たち3人の将来を一番案じていました。
 「明日の朝も迎えられたらいいなあ」と
 毎晩のように願っていたに違いありません。
 42歳の1月20日が最後の朝となってしまいました。